

令和5年岩手県モデル事業所伴走支援

施設概要 住田町社会福祉協議会アールス指定通所介護事業所

施種種別	通所介護
定員	35名
開設日	2000年
所在地	岩手県住田町

手順01 改善活動の準備をしよう

- ・生産性向上の取組を推進するにあたって、プロジェクトチームをつくる。
- ・現場担当者に任せるだけでなく、経営層も関与。
- ・経営層から、取組開始のキックオフ宣言をし、取組の意義等を周知。

手順02 現場の課題を見える化しよう

- ・情報を把握できていないと不安に思っている職員が93.8%。
- ・情報を共有すべきか悩むこと・共有方法（口頭・連絡帳）を悩む職員が60%以上。
- ・情報共有のルール（朝礼・連絡帳）がないと答えた職員が半数以上。
- ・情報が得られていないことで、介助方法が適切か不安になる職員が87.5%。

連絡帳に記載している情報を整理し、
情報を受け取りやすい仕組みを作る
(ホワイトボードを活用し、当日中に把握すべき情報を共有)

手順03

実行計画を立てよう

導入したテクノロジー

特になし

**連絡帳に記載している情報を整理し、情報を受け取りやすい仕組みを作る
(ホワイトボードを活用し、当日中に把握すべき情報を共有)**

1

連絡帳に記載している情報を可視化

- 利用者の状態、利用者との間接的な状態、職員間での共有事項を分類。
- 申し送り項目・内容等を5W1Hで整理。

2

ホワイトボードによる情報共有のためのルール作成

- ホワイトボードのルールを作成。

3

その他

- 連絡帳の記載内容をマニュアル化。
- 連絡帳の色分けをルール化。

手順04

改善活動に取り組もう

導入したテクノロジー

特になし

～工夫した点～

連絡帳に記載している情報を整理し、情報を受け取りやすい仕組みを作る
(ホワイトボードを活用し、当日中に把握すべき情報を共有)

1

連絡帳に記載している情報を可視化

- 連絡帳の情報を大きく3つに分け、連絡帳を色分けする。(連絡帳に記載した内意用にマーカーを引き、どの情報が一目でわかるように

2

ホワイトボードによる情報共有のためのルール作成

- ホワイトボードを活用し、当日中に把握すべき情報を共有

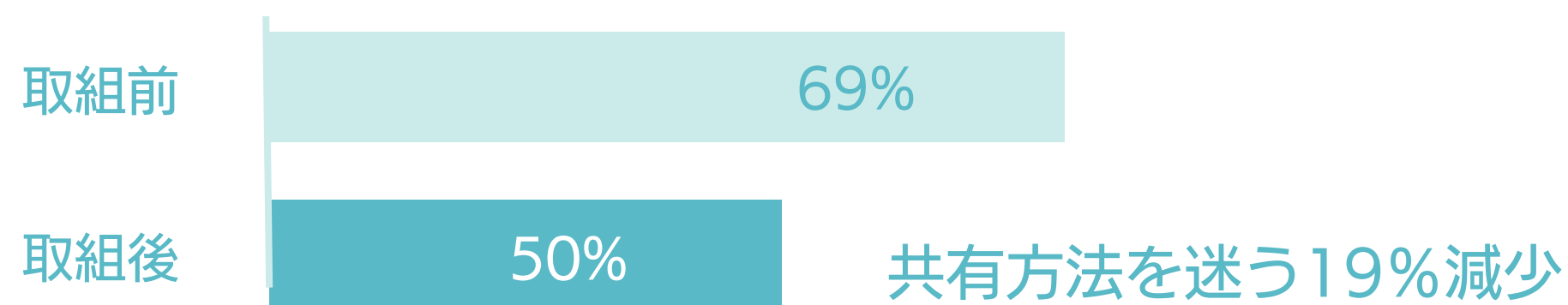
3

その他

手順05

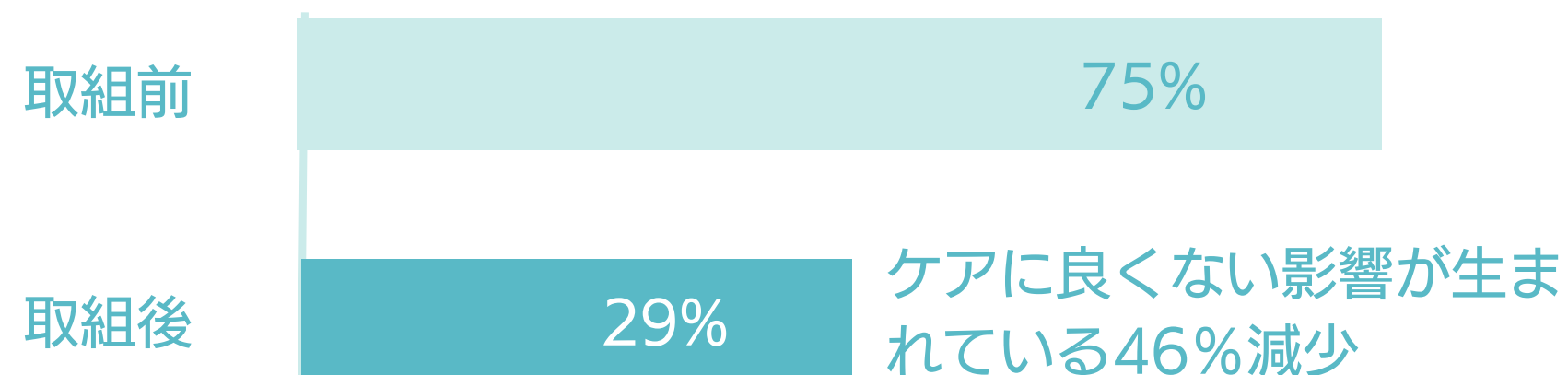
改善活動を振り返ろう

Q.自分が得た情報において、共有する方法（口頭・連絡帳）を迷うことがありますか？



情報の共有方法に迷う人が減少

Q.現在、情報共有がうまくいかないことによって、当日の利用者のケアによくない影響が生まれていると感じますか？



よくない影響が生まれていると感じている人が減少

ホワイトボードに書いてあれば、すぐに確認することができ、ケアを間違えることが減ったと思う。

その日の注意点がわかるようになった。

手順06

実行計画を練り直そう

得た学び、感じたこと

- 大きな課題に対して原因を追究し、そこで出た小さな問題を一つずつ解決していくことの重要さを知ることができた。
- 小さな変化をいくつも行うことで環境の変化に鳴れてもらうことが大切だと感じた。
- 職員にただお願いするだけではなく、まずはリーダーが自分自身で理解し意図をしっかりと伝えることで意図を理解し取り組んでくれることを学んだ。



- 他の業務内容についても深堀し、どのような目標を達成するために行っているのか、プロセスはどうであるか常に考えていけるような環境を整えていきたい。